

第1回河内長野市の学校における食育及び 中学校給食調査検討委員会会議録（要約）

平成21年8月24日(月) 午後2時30分

1. 開会（委嘱状伝達）
2. 教育長挨拶
3. 報告

「河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会規程」について

○事務局

資料による「河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会」の規程について、説明。

会議の回数は、6回程度で、期間は、約1年間と考えております。

4. 委員長及び副委員長の選出
5. 河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討の提言について、依頼
目標年次は平成22年度の上半期で来年度の一学期中に提言

○委員長

今、河内長野市教育委員会から、当委員会に対しまして、「食育及び中学校給食」についての提言の依頼を受けました。

内容について、委員の皆様にもご理解していただきたいと思いますので、依頼書を委員の皆様にも配布願います。

《委員全員に対し、依頼書のコピーを配布》

○委員長

この依頼書の確認を行い、次の議事に入りたいと思います。

事務局より、ご説明願います。

○事務局

提言依頼内容についてご説明。

学校において、食育を推進することが大きな課題となっている今日、河内長野市の小・中学校における食育について、考え方や指導のあり方などについて調査・検討していただき提言を求めるものです。

二つ目として、中学校の食育を行う上での中学校での昼食について調査・検討をお願いし、提言を求めるものです。

○委員長

事務局より、説明を受けましたが、何かご質問等ございませんか。

○委員長

ご質問がございませんので、教育委員会よりの提言依頼について、ご了承願います

か。ご発言がないようですので、ご了承と判断し、これより皆様方に調査・検討していただき、その内容についてまとめを行い、本委員会として教育委員会に対しまして、提言をさせていただきます。

それでは、次の議案に移ります。

今、教育委員会より提言依頼を受けたことについて、調査・検討を行って参ります。

まず、食に関することや学校給食の現状を認識することが、必要であります。

よって、事務局の作成した資料に基づいて調査・検討を進めたいと思いますので、事務局より説明をお願いします。

6. 調査・検討

○事務局

資料に基づき（第1回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会会議）P 1～6 説明。

○委員長

資料をそろえていただきまして、今課題となっておる食育にかかわる基本的な認識について、ただいま説明をしていただいたところですが、何か質問等ございませんでしょうか。

数年前から言われました早寝早起き朝ごはんです。百マス計算でおなじみの大阪府教育委員の陰山英男氏が百マス計算で、規則正しい生活習慣が大事であると一貫しておっしゃっておられます。今学力調査も含めて言いますと、規則的な食生活をするのが学習効果に直結していると分析があります。河内長野市さんは模範的な食育をしておられるように見受けられます。そうすると、大事なところをさらに推し進めていくことがタイミング的にいいと思います。学力調査で大阪府が全国47都道府県中45番目で、トップが秋田県で、どういうわけか日本海側がレベルが高い。秋田県と比べると決定的な違いは、大阪のほうは、河内長野市は例外ですが、家庭で勉強をさせない。具体的な日常生活ですと、大阪府のほうは、早く寝ていない。秋田県は小学生も中学生は9時ごろになったら寝る。大阪府のほうは、9時ごろになってもなかなか寝ないから、朝食を食べる時間がないから、食わずに学校へ行く。ということがどうやらわかってきたと聞いております。そういう面で、これから世の中を担う子ども達の学力だけでなく、そのひとつの柱として、食育が大事であると私は認識しております。どうでしょうか、質問も、ここをもう少し説明してほしいところがありましたら、よろしいでしょうか。

食育で、「金子さちお」さんが孤食について、一人で食べることですが、孤食の「こ」が五つか七つかあるということご存知ですか。固いものを食べない、固いの「こ」。もうひとつは、固定する。毎日カレーを食べるとか毎日の同じものを食べる。固定するの「こ」。家族団らんでなく、全員がテレビを見ながら食事をして会話をしない。

この字型、弓形でテレビを見ながら食事をしている。弓形の「こ」。粉食ばかりを食べている。うどんとかスパゲッティとか多い。その粉ものの「こ」。食育で中でも、食事の栄養のバランスとかいう面とか、あるいは一緒に食べるという面でも。

私は今外大で英語を教えております。学生から聞いた話ですが、朝5時に起こされて家族一緒に食事をする。家庭において、箸の使い方とか背筋を伸ばしてなさいとかいう食事のマナーを躰けられるという学生もいるということです。まんざら、今の学生も捨てたものじゃないなと思います。

今、食育について全体的に基礎的なことも含めてレクチャーしていただき、遠慮なく、忌憚なく何かございましたら、お願いします。

ご質問がございませんがいいですか。

これで、一旦切らしていただき、「食育基本法」と「食育推進基本計画」について後で深めていくということで、次に事務局のほうで説明をお願いします。

○事務局

資料基づき（第1回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会会議）説明。P7～8

○委員長

ありがとうございます。

2番目の学校給食について、河内長野市を中心として、大阪府並びに全国の状況について基本的なデータの説明がございました。

このことについて、何か質問、ご意見等はございませんか。

今後はこれをもとに議論を深めていきます。質問がございましたら、詳細について事務局のほうで調べていただくという展開で行きたいと思います。

何故、大阪府は中学校給食の実施率が低いのでしょうか。

○事務局

昭和29年に学校給食法が施行され、山形県で学校給食がスタートとなり、全国的に、小学校の学校給食から始めました。昭和39年の高度成長期において、現在と違い子供の数も増えたため、特に大阪府では学校施設の整備をまずしなければならない状態でした。

財政的面において、中学校での完全給食を後回しとなったことが、一点目であり、大阪府での中学校ミルク給食は他府県より早くスタートしたという部分で、完全給食を後回しとなったことが原因であると聞いております。

○委員長

先ほどの説明の中にあっただけですが、高度成長期においての大阪府は社会増が激しく、学校施設整備費の面に多くの費用を要し、大阪が団塊の世代の人口が最も多く、東京より多い。社会増が最も多く、教員も増やした。社会状況は今説明していただい

たとおりですが、大阪独特の中学給食に係るポリシーを私は感ずるのですが、何かありますか。

○委員

ポリシーといいますか、家庭との繋がりの中で、子どもの弁当を作るということが続いていると感ずるところです。

○委員長

お弁当が愛情表現であると思います。社会状況もありますが、大阪では中学給食が少ない中で、親の愛情を示しているところだと思います。大阪の中学生は家族愛に包まれている状況です。

そのことを私は誇りとしています。

○事務局

市町村の中学校給食未実施に対する考えを、大阪府がまとめた資料があるのですが、家庭弁当持参を原則として、推奨又は家庭弁当そのものに教育的価値を見出しているとするのが10市町村、中学校に小学校給食のような学校給食はなじまないとするのが3市、小学校給食に全力傾注で余力なしとするのが4市、人的・施設設備・財政上の理由によるとするものが18市町村という結果が出ています。河内長野市については、給食だけが食の教材ではないことから、現在、中学校においては、家庭からの手弁当を基本としているところです。

○委員長

昨年、橋本知事が中学校給食をお願いしますということを受けて、大阪府で審議した結果です。先ほど和田教育長のお話にありましたように、去年1年間、私は大阪府の審議会に関わりましたわけですが、橋本知事の仰るとおりではなく、大阪では弁当持参が根強い。親御さんの希望では、昼食については学校の方でお願いし、朝食と夕食に愛情を注いでいますという話がないことはないのですが。ある市の調査では、弁当がいいという生徒が多いというアンケート結果が出ております。私がいる枚方市では弁当がいいという生徒が圧倒的に多い。他府県では考えられないぐらい、大阪では弁当への愛着が強い。それに固守するつもりは毛頭ございませんが。

何かありませんか。

○委員

昭和58年に宝塚から河内長野市に引っ越してきました。その当時、宝塚市では中学校まで校給食がありましたので、河内長野市では小学校、中学校も当然給食があるものと思っていましたが、小学校から弁当であることに驚きました。理由を聞きますと、地場産の野菜・米などで弁当を作っている家庭が多く、それを弁当に入れるということでした。

その時に、1年後に給食が開始されると聞いたのですが、中学校も給食が開始され

と思っていたのですが、出来なかった。なぜその時に中学校も給食をしなかったのかと思いました。

今、中学校給食を検討する中で、河内長野は大阪府の中でも地域性がありますので、どのような意見が出るのかと思います。

○委員長

たくさんの意見の中で、こうあるべきというコンセンサスをまとめていきたい。

○委員

給食だと冬は暖かいもの食べさせてあげる。夏場は弁当を保管することを考えたら、給食だと親として安全です。働いているお母さんが多く、いつも購買で昼食にパンを買う子があると子どもから聞きます。かわいそうだねと子どもと話したことがあります。

1日位は、みんなと同じもの食べられたらいいなと思います。

○委員

栄養価のことなどいろいろなことを考えると、給食はバランスの取れたものと考えていた。先ほどから聞いていますと、愛情表現ということは原点であるということをおぼろげに忘れていたことを教えていただきました。親と口をきかないということがありますが、親も子も何もいわずに作った弁当を朝に渡し、それを学校で食べることによって何か心を通じ合う。子が親から離れないように、お弁当を作り続けていくことにつながると思います。中学校で問題がいろいろ起きており、子どもの心が蝕まれており、お弁当に限らず食育が大事だと今日改めて考えさせていただきました。

○委員長

だからこそ、食育はマスコミでも取りあげられており、問い直す時期にきております。給食ではなく、親が子どもとのコミュニケーションをとること。女性が社会進出で忙しいから、作ってよという単純な発想ではなくて、だからこそどう考えているのかを改めて考え直すという提言をする必要があると考えます。

○委員

思いあぐねています。私は生まれてからずーと河内長野に住んでおりますが、その当時小学校では給食がなく、今から考えたら小学校から母親がずーと弁当を作ってくれたことに感謝するところです。今自分の子どもが千代田中学校に行かせてもらっており、小学校の時は助かったなあと思いますし、私が働いているから。中学校に入ったときから、その日の子どもの調子もあり、子どもの弁当を作っている。

私の学校の学年主任が保護者に弁当を持参するようお願いしています。弁当を持参できない子にパンを買わすのですが、落ち着いている学年はパンが少ないです。やはり、家の人から弁当を作ってくれることが大事かなと思います。

○委員長

戦後60年経って、大阪はずっとそのことを続けてきた。河内長野の独自の考え方があってしかるべきかなと思います。日本全体に発信できるようないいものを作って行きたいと思います。

○委員

私は今河内長野市に住んでいる。私には息子が2人いまして、30歳過ぎてるのですが、子どもは小学校・中学校を堺市で過ごしており、小学校では当然給食があった。長男が中学校に入学したときに校長先生のお話では、子ども達が中学生になったら、だんだん話をしなくなる子が多くなるけど、子どもとの愛情をつなぐために毎日しっかり弁当を作ってあげてくださいという話でした。

その当時パンの取扱いはなく、弁当しかなく、私も働いており、正直、毎日弁当を作るのがしんどくて、でも校長先生の話に納得して、がんばらなければいけないと思いました。

その学校の保護者はそれを受け入れており、地域はとってもよく、懇談会でその学校へ行った時、生徒とすれ違ったときも会釈してくれ、いい中学校でした。

大変ですが、がんばってよかったなあと思いました。

○委員長

大阪では、小学校での給食が100%に限りなく近くあります。一方お弁当の意義が根強く有り、中学校での実施率が7.7%で、全国平均では80%です。完全給食でなく、その中でも弁当を持ってくる子がいる。発達段階の違いかなあと思います。中学生になると、自分で弁当を作る子も出てきている。

委員の皆様どうですか。

○委員

中学校では、給食は生きた教材として意味がないという各市町村で意見があると聞いておりますが、食べるだけでなく、中学生になると、それまでの工程の部分を考えていかなければならない。たとえば、食べるだけでなく、家庭科で調理実習するとか、そことつながりを理解できることが大事だなと思います。自分で調理して、食べ物の価値がわかってくると感ずる。時々、授業を見に行くと男の子も女の子も分担して調理している。その姿を見たら、男の子も女の子もやるべきものだと、そういう部分では、完全給食とは別に、生きた教材としてそういうところに根強くあると感じます。

○委員長

家庭科の授業で衣食住です。家庭科の授業の中で子ども達にも食に人気があり、喜んで作って食べる、そのことには得がたいものがあると思います。

大変申し訳ございません。もっと皆さんの意見を聞かせていただいたらいいのですが。今日いただいた資料を次回までにゆっくりと読んでいただいて、それを深める

意味で、皆様のご意見をお聞きしたいと思えます。

まず、今日はスタートですので、次回に活発なご意見をご期待します。
今日は初めてですので、基礎認識として、資料に目を通すという感じでして、次回でそれを深めるということで、事務局もさらに深めるような資料がございましたら、ご提供していただければ、よろしいでしょうか。

○事務局

わかりました。

○委員長

今日はこれで終わります。次回の予定はどうなっていますか。

○事務局

次回の予定ですが、全体的なタイムスケジュールを皆様に配布した資料に基づき説明いたします。タイムスケジュールは次のとおりです。

第2回目が10月中旬、第3回目が11月下旬、第4回目が平成22年2月初旬、第5回目が平成22年4月下旬、第6回目が平成22年5月下旬の予定で計6回です。よろしくお願ひします。

○委員長

来年の5月下旬を目途としてまとめると、中身については方向性は全然決まっていますので、河内長野市独自のこの二つのテーマである「食育についてのあり方」及び「中学校給食のあり方」を皆様方で方向付けしていただく。今日の資料はいろいろ網羅されておりますが、さらに皆様方でご意見がありましたら、その資料を提供していただき、さらに深めるような資料があれば提供していただければありがたいです。

次回は10月23日の午後2時30分に開催します。

本日はありがとうございました。